

新たな北海道総合開発計画を考える地方会議、 地域との意見交換の概要

国土交通省北海道局

令和5年9月15日

概要

新たな北海道総合開発計画策定に向けた中間整理（案）について、地域で活躍する多様な方々との意見交換「新たな北海道総合開発計画を考える地方会議」や、北海道内の地方公共団体及び経済団体の長と北海道開発局及び開発建設部が面談による「地域との意見交換」を行い、多数のご意見をいただいた。

●新たな北海道総合開発計画を考える地方会議

- ・ 開催時期 令和5年2月
- ・ 地方会議 北海道内10地域で開催
(札幌、函館、小樽、旭川、室蘭、釧路、帯広、網走、留萌、稚内)



(地方会議の様子)

●地域との意見交換

- ・ 実施時期 令和5年1月～3月
- ・ 意見交換 北海道内の地方公共団体178市町村、経済団体78団体

計画全般

- 理念の共有化を図るためのキャッチフレーズ的なものはないのか。また、北海道として「このようにやっていくのだ」という誰もがわかるようなものを明確に打ち出していきたい。
- この資料を見て硬いなと思った。もう少し柔らかく伝えられるようにしたほうが良いと思う。
- インフラ関係者と教育関係者がともに学ぶ場の充実が必要である。関係者の対話の機会の確保や、情報共有の推進という趣旨の記述を追加するとよい。
- 地元の子どもたちに自分たちの町を知ってもらって、町の産業に関心を持ってもらうというような教育的な側面も必要になってくる。幼少期から地域づくりの大切さを伝えるのは重要である。学習の中で、北海道の子どもたちに北海道をより好きになってもらうことがすごく大事である。

食料安全保障を支える農林水産業・食関連産業の持続的な発展

- 日高の中心産業である軽種馬産業がどこに位置付けられているのかわかりづらい。
- 自生する野草や酪農家の個性を活かした多様な取組を広めたい。
- 農地集積を再びしなければいけないという問題について、効率化されるからすべきだという話がある一方、大区画化だけでなくさらに新しい技術などでうまくやっていけるのではないかという意見もある。条件のいいエリアと、これまでのやり方でやるエリアとの住み分けをしても良い。
- 農林水産物の輸出促進についてあまり触れられていないように感じる。
- 食料安全保障的には農地を確保することが重要であり、離農などで耕作地を放棄して荒地になるようなことを防いで、しっかりと耕作を維持できるような地域づくりをすることが基本。
- 地域内の癒やしの景観保持については、多面的機能を活用しながら雑木を除去したり、道路や法面の草刈りをしたりしながら、美しい農村景観を保てるようにしている。農業には経済活動にプラスして、土砂を流出させない防災、景観という面では観光にも寄与している。
- 一昨年には赤潮の被害があった。漁業者にとってはすごく影響の出る問題。
- 若手の農家は、自分たちで商品開発して販売までやろうと取り組んでいる。地域の素晴らしさを感じてもらえるようブランディングする人が増えるといい。
- 農山漁村の振興で重点的に取り組む施策について、住宅政策など、より具体的に記載すべき。

観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

- ユニバーサルツーリズムの推進との記載があるが、「アクセシビリティ」を用いた方が多様性という意味合いにより幅広く捉えることができる。
- 観光コンテンツの創出の取組として、北海道遺産の活用、ジオツーリズムの推進、温泉資源等に触れてはいかがか。

地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

- 北海道ではCCS大規模実証実験が行われ、現在モニタリングを実施中である。国内で唯一の実証試験地が北海道にあるという価値を、本案において強調していただきたい。
- 再生可能エネルギー以外の石炭等の未利用資源がある。多様な手法による炭素固定・利活用やCCUS等追加願いたい。

生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

- 予防保全型のインフラメンテナンスについては一切言及がされていなかった。生産空間を守る、観光に資するという意味でも特に予防保全型のインフラメンテナンスは必要。
- デジタル化を推進しているが、それらの重要性はまだまだ高くなる。5Gエリアが拡大すれば、建設業界では、3次元、インターネット、デジタル化をコラボレーションすることによって、人のいない部分の補填ができる。

北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興

- ビザなし訪問や墓参が無くなるとメディアに出る機会が少なくなり、全国民の思いが希薄化することを一番懸念している。そのため、折に触れて北方領土問題を表に出すことが必要だと考えている。北方領土返還運動と隣接地域の地域振興への決意をきちんと入れてほしい。
- 北方領土の早期返還を進めてほしい。また、返還されないことによる隣接地域の疲弊があるので、この地域の振興についてはしっかりと計画に盛り込み、強く進めてほしい。
- 国境周辺地域の「安全」・「定住」とまとめているが、もっと強い表現にできないか。食料安全保障や燃料高騰リスクは表現されているが、国防上の安全保障を書いても良いのでは。
- 道北地方は、ロシアと国境が近く、特に、利尻礼文が一番先に危機が迫ってくると考える。防衛対策も十分御配慮いただきたい。
- 道北地方は、高規格道路は繋がっていないが、港、空港、JRがあり、利尻礼文との繋がり、サハリンとの繋がりなど他には無い特別な地域。先人達が創ったこの地域をなんとか維持・発展させたい。国境周辺地域として、以前はサハリン交流を積極的に進めていたが、国境に人が住まなければならないので、人口減少の激しい離島も含め、何でも良いのでこの地域のプレゼンスを高める必要がある。